

子どもの声を反映した環境整備とルール作りについて

取組の背景・目的

- ・中野区では「子どもにやさしいまちづくり」を掲げ、子どもの権利条例のもと、子どもの意見を施策や運営に反映する方針を示している。児童館においても、子どもの声を具体的な環境整備(物品購入や使い方)や利用方法に反映する仕組みづくりの必要性を感じ、取り組みを進めた。
- ・子どもたちが「自分たちの声が届く」と実感できる場をつくることで、児童館への関心や参加意欲を高め、居場所としての満足度向上につなげることを目的とした。

取組の概要

1. 中野区全体で児童館利用者に向けてアンケートを実施。(5, 6月)
各館でアンケート用紙を配布し、アンケートに答えてもらった。
また、インターネットでの回答も併用した。



2. 宮の台児童館独自の意見収集(5, 6月)
区のアンケート回答と並行して、独自の意見収集を実施。
職員による丁寧な聞き取りと付箋に意見を書いて貼ってもらう形式で実施。

3. 運営協議会にて子どもたちの意見を紹介(7月)
子どもの意見を協議会に報告し、取り組みへの理解と関心を深めた。
また、児童館まつりで、「集めた意見に投票するコーナー」を設置し、運営協議会メンバーに担当してもらうことを提案した。

4. 児童館まつりで投票コーナー実施(11月)
まつりに参加した約250名の子どもが投票。
投票ボードにシールを貼る形式で実施した。



5. みんなの希望が叶う大発表会(11月)
区全体のアンケート結果と独自の意見収集結果を踏まえて、
投票で上位となった購入物品を発表。クイズ形式で結果を紹介し、子どもたちの期待感を高めた。
6. 買ったもののお披露目会(1月)
購入できた物品を披露し、試しに使ってみる場を設けた。
7. みんなで使い方を決めよう会(2月)
購入物品の使用方法やルールについて話し合う会を実施した。

工夫点・留意点

◎意見を出しやすい環境づくり

事務室前に付箋に書いて貼れる掲示を設置し、来館した子どもへ「思ったことがあれば書いてね」と声をかけながら、気軽に意見を出せるよう工夫した。

◎意見の共有

児童館運営協議会へ取り組みを随時共有し、子どもの意見に触れてもらう機会をつくった。11月の児童館まつりでは、一番近い大人の支援者たちに、子どもたちの意見を肌で感じてもらうため、投票コーナーを担当してもらった。「魚釣りコーナー」→「アンケート投票」→「景品」と流れるように配置し投票率向上につなげた。



◎フィードバック(結果の見える化と説明)

「みんなの希望がかなう大発表会」にて、区アンケートと独自収集の結果をパワーポイントで紹介し、反映状況を丁寧に説明した。採用されなかった意見についても、その理由を説明した。

物品到着後はお披露目会を行い、使用ルールの話し合いも継続している。



取組の効果とねらい

アンケートをきっかけに、子どもたちが付箋で要望を書き、投票や発表を通じて結果が返ってくことで、「自分たちの声が反映される」ことを実感できるようになった。「自分たちの居心地のいい場所を自分たちの意見で職員と一緒に作っていく」というその積み重ねが、主体性や自己肯定感を育み、友だちの意見を尊重する態度にもつながる。こうしたプロセスを大切にしていくことで、児童館が「子どもが参画できる場」として、より豊かに育っていくことが期待される。

課題・今後の展開

購入物品のルール決めについて

購入して届いた物品は、すぐに自由使用とするのではなく、子どもたちと「使い方のルール」を話し合った上で利用を開始する。ルールづくりに参加した子どもから優先的に利用を始められるようにするなど、主体性を育む工夫を検討する。

継続的な意見収集の仕組み化

一度決めたルールを固定化せず、新たな要望が出た際には子どもの意見を聞きながらルールを更新できる仕組みの運用を目指す。